

1. 件名：原子力事業者の緊急時対応に係る訓練及び規制の関与のあり方に係る意見交換会合に関する面談

2. 日時：令和4年7月8日 11:00～11:40

3. 場所：原子力規制庁3階 ERC

4. 出席者

原子力規制庁 緊急事案対策室 川崎企画調整官
核燃料施設等監視部門 平野主任監視指導官
専門検査部門 岡村専門職

関西電力株式会社

原子力事業本部 安全・防災グループマネジャー 他2名

5. 要旨

関西電力より令和4年7月7日に実施した第3回原子力事業者の緊急時対応に係る訓練及び規制の関与のあり方に係る意見交換会合資料2の「中期計画に基づく訓練の実施イメージ」(p.8)について、内容の確認があった。

原子力規制庁から、資料に基づいて再度説明を行った。資料中の「中期計画の期間内に全19の手順の確認」の趣旨は、現在年1回以上の頻度で19シナリオから個別対応手順を網羅するシーケンスを選定し、いわゆるシーケンス訓練を実施しているが、結果的に毎年同じシナリオになっていることに対して、緊急時対応能力の向上に資する取り組みとして、中期計画に定めた上で多様なシナリオを用いて個別対応手順を網羅的に確認することを例示したものである旨を伝えた。また、緊急時対応能力を維持しつつ、能力向上をどのように取り組むのか、指標案作りも含めて事業者内で検討するように伝えた。

関西電力より、引き継ぎ事業者内で検討するとのことであった。

6. その他

配布資料

資料1 原子力事業者の緊急時対応に係る訓練及び規制の関与における各課題の今後の検討方針(第3回原子力事業者の緊急時対応に係る訓練及び規制の関与のあり方に係る意見交換会合資料2)

<https://www.nsr.go.jp/data/000396678.pdf>